髙尾ひとみ　令和4年4月度特別作品

根雨（ねう）神社と野蒜（のびる）

髙尾ひとみ

根雨神社は、鳥取県にある神社です。その名前の謂れの一つとして、元明天皇の在位（七〇七～七一五）に旱魃があり、社で雨乞いをすると雨が降って豊作となったことから、根まで潤す「根雨」という地名になったといわれています。大きな神社ではありませんが、美しい木材で丁寧に作られ、大切にされている社でした。

社の周囲は、春とはいえまだ寒い山里です。土手の野草を引っ張ると一本がたやすく抜け、調べると野蒜でした。また採ろうとすると、葉がちぎれるだけで白い球根が採れません。野蒜は、掘るものと知りました。

藪椿川がうがうと流れをり

川沿ひの道に聞きたる初音かな

霞みたる空に鳶の高く飛び

崖下に六地蔵あり雪残る

根雨といふよき名の社馬酔木咲く

糠雨の降りつづきたる芽吹かな

奥日野の土手に掘つたる野蒜かな

蕗の薹畔の横には川流れ

連山の芽吹や朝日いつせいに

花菜見て短き旅の終りけり

《作品鑑賞》

あざみ

鳥取県の根雨神社周辺を吟行した句をまとめておられます。初春の長閑な風景を丁寧に写生され、さまざまな物と向き合っておられるお姿が目に浮かびます。私もご一緒させて頂き、傍に居るような感覚を覚えました。

川沿ひの道に聞きたる初音かな

急に春めいてきた川沿いを歩いていると、折から近くの藪か立木に鳴く鶯の声が聞こえてきた。その時の感嘆したご様子が伺える。

根雨といふよき名の社馬酔木咲く

高いところにある神社。白い花馬酔木が咲いている。この地域を巡ってこられた回想もあり、目の前の景だけでなく、古い歴史のある根雨地区に対する挨拶句でもある。

奥日野の土手に掘つたる野蒜かな

野蒜は春の雑草で、葉は細長い管状、根は白く辣韮に似ている。少し茹でて酢味噌で和えて酒の肴にする。初めてで残念。たくさん掘りたいですね。

花菜見て短き旅の終りけり

見渡す限り菜の花畑が広がっている。この地を去りがたい気持ちと充実した旅に満足しているご様子も伺える。

Printed by BoltPDF (c) NCH Software. Free for non-commercial use only.